学術講演
ラーハウザー記念東北学院礼拝堂の「昇天」ステンドグラス——東北学院の象徴としての意味の拡がり——

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2021-10-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 鐸木, 道剛
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/24654

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂の「昇天」ステンドグラス

―― 東北学院の象徴としての意味の拡がり ――

鐸　木　道　剛

＜東北学院のステンドグラスの意義の発見，その研究の拡がり＞

東北学院の土樋キャンパスの正門を入ってすぐの右に石造りの礼拝堂がある。1932 年献堂のラーハウザー記念東北学院礼拝堂である。内部の奥，祭壇の上の窓にステンドグラスが入っている【図 1】。描かれているのは「昇天」である【図 2】。「昇天」図と下部の建築モチーフの間には「祝福しながら彼らを離れ，天に上げられた（It came to pass, while he blessed them, he was parted from them, and carried up into heaven）」との銘文がある。これは『ルカによる福音書』の第 24 章 51 節で，欽定訳聖書（Authorized King James Version）の文言をそのまま記している。

しかし，このステンドグラスについては英国製ということが言われるのみであった。注文書が東北学院史資料センターにある，またステンドグラス自体に制作工房の署名があるなどと言われていたが，調査されることはなかった。しかし調査に着手するや，様々なことがわかってきた[1]。以下，現段階での調査結果を報告する。

ステンドグラスの手前には祭壇がある。祭壇から上に延びる腰板によってステンドグラスの下の部分が隠されているが，そのステンドグラスの向って左の最下部に確かに署名があった。「ヒートン・バトラー＆バイン　ロンドン（Heaton Butler & Bayne London）」と記されている【図 3】。インターネットによる情報の時代，この工房名を検索すると，ヴィキペディアにも詳しい記述がある[2]。そこにはヒートン・バトラー＆バイン工房（以下，HBB 工房）は「ヴィクトリア朝のゴシック･リヴァイヴァルの指導的工房のひとつで，ヴィクトリア朝の主要な建築家の仕事を請け負った（one of the leading firms of Gothic Revival stained glass manufacturers, whose work was commissioned by the principal Victorian architects）と記されていた。工房はロンドンの中心部コヴェント・ガーデンのギャリック通

1　このステンドグラスに注目され，鑑定と調査の必要性を主張され，鑑定の道筋を立てられたのは，本学文学部の出村みや子教授であることを記して感謝します。

2　https://en.wikipedia.org/wiki/Heaton,_Butler_and_Bayne

（Garrick Street）14 番にあって 1852 年から 1953 年まで存続したといい，東北学院のステンドグラスは 1932 年の制作とはいえ，ヴィクトリア朝の重要工房の制作になることが判明した。これは大きな発見である。この作品を巡っての研究は豊かな成果をもたらすに違いない。

しかし，そもそも東北学院はプロテスタントの大学である。プロテスタントの大学の礼拝堂に，12 世紀フランスのゴシック，すなわちカトリック発祥のステンドグラスがあること，また礼拝堂そのものもアメリカのカレッジ･ゴシック（Collegiate Gothic）で，チューダー・アーチと呼ばれる幅広で平たい尖頭アーチを特徴とするネオゴシックであること，これはどういうことか。

それは近代における中世復興（Medievalism）という重要テーマである。18 世紀以来のゴシック・リヴァイヴァルはもちろん，19 世紀中期からのラファエロ前派，アーツ・アンド・クラフツ運動，神学ではジョン・ヘンリー・ニューマン（John Henry Newman 1901-90）のカトリック復興のオクスフォード運動に関わる大きな 19 世紀における近代批判であり，当然 19 世紀イギリスの初代日本公使のオールコック（Sir Rutherford Alcock KCB, 1809-1897）や大物ジョン・ラスキン（John Ruskin 1819-1900）に始まるイギリスのジャポニズムにも通じている。

19 世紀のステンドグラス復興と 19 世紀のジャポニズムが反近代で通じていることについては，ジョン･ラファージ（John La Farge 1835-1910）が明快に体現している。ラファージは 1886 年に日本に滞在し，ボストンのハーバード大学つながりで，フェノロサ（Ernest Francisco Fenollosa 1853-1908）やビゲロー（William Sturgis Bigelow 1850-1926）と交友し，滞日日記も出版しており，それは『画家東遊録』として翻訳されている。しかし今，わが国でラファージを研究している人はいない。ラファージは日光の森のなかで感動して「ここにはパ―ンが生きている（The great Pan might still be living here）」[3] と書いており，それはヨーロッパではキリスト教によって駆逐された古代の神々が日本ではまだ生きていることを発見する感動で，4 年後の 1890 年に来日するラフカディオ・ハーン（Lafcadio Hearn 1850-1904）が日本を「エジプトかニネーヴェのような遙遠の古代」[4] になぞらえた同じハイネ流のロマン主義である。そのラファージはアメリカにおいてティファニー（Louis Comfort Tiffany 1848-1933：ティファニー社の創立者 Charles Lewis Tiffany の息子）とともにステンドグラス復興の立役者であり，しかもアメリカのジャポニズムのパイオニアで

3　John La Farge, *An Artist's Letters from Japan*, New York, 1897, p. 160. 邦訳，ジョン・ラファージ『画家東遊録』（久富貢・桑原住雄訳）中央公論美術出版，1981 年，122 頁。

4　ラフカディオ・ハーン『神国日本：解明への一試論』（柏倉俊三訳）平凡社，1976 年，14 頁。

あったとは事典にも書いてある常識である[5]。ラファージひとりのなかで，中世復興とジャポニズムが一体となっている。

さらに日本との関係でいえば，中世復興はアーツ・アンド・クラフツ運動を通じて，わが国の柳宗悦（1889-1961）の民芸運動にも繋がってくる。さらにイギリスを離れれば，同時代のドイツのナザレ派（Nazarener）やボイロン画派（Beuroner Kunstschule），フランスのトルバドール画派（Style Troubadour）やヴィオレ・ル・デュク（Viollet le Duc 1814-79）による中世復興，さらに東に及べば1880年代からのロシアにおける中世イコン復興，山下りん（1857-1939）がまさに体験した，バロックの油彩イコンの否定の始まりも同じ中世復興であり[6]，それはヴラディミル・マルコフ（Вальдемар Матвейс：В. И. Матвей, Владимир Иванович Марков 1877-1914）らのロシア・アヴァンギャルドの中世指向に繋がる[7]。ロシアと同じ正教会のセルビアにおいても，19世紀のヴァルトロヴィチ（Mihailo Valtrović 1839-1915）とマレティチ（Djordje Maletić 1816-88）のイコン論争，そしてミルティノヴィチ（Dragutin Milutinović 1840-1900）のセルビア中世研究にセルビアにおける中世復興が見て取れる。ルネサンスを経ている西欧と，ルネサンスを経ない東欧ロシアの正教世界の中世復興の意味の違いは大きな問題として次の課題とするが，ともかく，以下，わが東北学院のステンドグラスの成立事情をみてゆこう。冒頭にも記したように，東北学院史資料センターには注文の際の書簡2通が残っていた。

＜東北学院史資料センターに残る2通の手紙＞

2通ともに1931年7月1日付けである。

1通はシングルトン・ベンダ商会からモルガン気付でシュネーダー院長宛【図4】。もう1通はモルガンからシングルトン・ベンダ商会宛で，1通目の手紙の内容を確認する手紙である【図5】。モルガンとは横浜在住のアメリカ人建築家ジェイ・H・モルガン（あるいはモーガン。Jay Herbert Morgan 1868-1937　本論では「モルガン」とカタカナ書きする）で，ラーハウザー記念礼拝堂の設計者で建築家。水沼淑子は「モーガンとシュネーダーがどこでどのように知り合ったかは不明だが，シュネーダーの学院計画を建築によって具現化する役割を演じたのがモルガンだった」と記している[8]。シングルトン・ベンダ商会は，注文

5　Robert Hughes, *American Visions : The Epic History of Art in America*, New York, 1997, pp. 243-247.

6　拙著『山下りん研究』岡山大学文学部研究叢書35，2013年。とくに第10章「19世紀ロシア・イコンのふたつの様式」（初出1996年）143頁以下。

7　同書の第12章「中世イコンの発見と現代」（初出2005年）178-9頁。

8　水沼淑子『ジェイ・H・モーガン：』関東学院大学出版，2009年，106頁。102頁には，船上でモルガンとシュネーダー院長が並んで写っている写真が掲載されている。

主シュネーダーと建築家モルガンの依頼で，ロンドンの HBB 工房にステンドグラスの注文を仲介した商社ということになる。

＜シングルトン商会からモルガン気付で，シュネーダーに宛てた手紙＞

>>

YOKOHAMA, July 1, 1931.

To The Rev. D. B. Schneder, D. D.,
c/o Jay H. Morgan Esq.,
Yokohama.

Dear Sir,

STAINED GLASS WINDOW

We beg to confirm our conversation of this morning
wherein we agreed to supply and you agreed to purchase
One 5-light Stained Glass Window
in accordancee with the following particulars : -

The Design to be similar to Messrs. Heaton, Butler & Bayne’s Sketch No. 14068 but with the following alterations :

The two angels carrying scrolls, one in each outside light, to be omitted in order to make the figure of Christ more prominent. The space occupied by these angels to be filled in with other matter at maker’s discretion.
The figure of Christ, the two angels, and the eleven disciples to be retained, and their faces executed in a similar manner to those in the window supplied to Christ Church.
The inscription “It came to pass while He blessed them He was parted from them and carried up into Heaven” to be retained exactly as shewn, and no other inscription to be included.

The above alternations are required from choice. In addition, the makers are to be at liberty to omit a certain amount of detail work in order to bring the price down to the agreed figure, which is Yen 400.- below their original quotation. Any alteration made on account of price is to be entirely at maker's discretion, but we shall endeavour to get them to make a reduction in price so as to reduce such alterations to the minimum.

The Size of the window to be in accordance with templates to be supplied by you, and to be about 100 sq. ft. In all.

The Price to be Yen 4,800.-（Yen Four Thousand Eight Hundered only）ex Yokohama Customs, landing and clearing charges paid, but exclusive of Import Duty if any.

The price includes insurance against ordinary marine risks to final destination in Sendai, but does not include insurance against breakage which is for your risk and account. The goods will be carefully packed and specially stowed on the carrying steamer, so as to minimize this risk as far as possible.

Carriage from Yokohama to Sendai is not included.

Terms of Payment : Cash on Delivery.
Time of Delivery : The makers name four months after receipt of order, so that the window should arrive in January 1932.
Shipping Marks : The cases to be marked
Tohoku Gakuin, Nihon Kiristo Kyukai,
YOKOHAMA.

Thanking you for your order and awaiting the favour of your confirmation,

We are, dear Sir,
Yours faithfully,
SINGLETON, BENDA & CO. LTD.
(signature)

＜内容翻訳＞

>>>

1931 年 7 月 1 日

モルガン様気付

シュネーダー師宛

販売と購入についての今朝の合意を確認してください。

5 連のステンドグラス窓，　詳細は以下の通り

デザインは，ヒートン・バトラー＆バインの 14068 番のスケッチに似たもの，ただし次のような改変がある。

両側のそれぞれの窓の光の中に巻物を抱えるふたりの天使は省き，キリスト像を目立たせる。この天使の部分は，制作者の判断で別の図柄で埋める。

キリスト，ふたりの天使，11 人の使徒たちの姿はそのままで，顔はクライスト・チャーチの窓と同じように制作すること。

「祝福しながら彼らを離れ，天に上げられた（It came to pass, while he blessed them, he was parted from them, and carried up into heaven）」との銘文は示されている通りに正確に保つこと。他の銘文は不要。

上記の変更は選択肢からで，それに加えて，合意した変更済みの費用に押さえるために細部の省略は自由にしてよい。その額は 400 円。あとで元の見積もりを示す。制作費を下げるための変更については，制作者に任すが，我々としては，できるだけ変更しないでいいよう，制作費そのものを下げるよう努力する。

窓の大きさは，提供される見本通りで，全体で 100 平方フィートの予定。

価格は 4800 円の予定で，横浜税関渡し。上陸と手形交換手数料込み。輸入税は別途。

価格には最終地点の仙台までの通常の海上事故の保険を含むが，日本側の破損事故は免責。品物はこの危険を最小にするために，運搬汽船に注意深く梱包され，特別に積み込まれる。

横浜から仙台までの運賃は含まれていない。

支払い時期：引き渡し時，現金払い

引き渡し時：制作者は，注文を受けてから 4 ヶ月と言っている。窓は 1932 年 1 月に到着することになる。

貨物名：貨物箱には「東北学院，日本キリスト教会，横浜」と記される

注文に感謝し，確認してくださることをお待ちしています。

シングルトン・ベンダ商会

＜署名＞

<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<

もう一通は次の通りである。

＜モルガンからシングルトン商会に宛てた手紙＞

>>>

July 1st, 1931.

Singleton, Benda & Co., Ltd.,
96 Yamashita-cho
Naka-ku, Yokohama.

Dear Sirs : -

Your quotation of todays date addressed to Doctor D. B. Schneder in which you propose to finish the five (5) panel "Stained Glass Window" for the Tohoku Gakuin Chapel at Sendai for the sum of ¥4,800.00 (Yen Four Thousand Eight Hundred) is accepted in accordance with the terms and stipulations contained in your letter.

We trust the manufacturers will be able to make delivery in December as we had hoped to have the window complete for Christmas day.

Will you please request the manufacturer to write us and note the changes in the design to meet the price. They are to start work on the window as soon as possible.

Very truly yours
Jay H. Morgan
（signature）

“Approved By”
A. B. Schneder
Date July 3. 1931

＜内容翻訳＞

＞＞

1931 年 7 月 1 日

横浜，シングルトン・ベンダ商会宛

東北学院の礼拝堂のための 5 連構成のステンドグラス窓を 4800 円で備え付けるとの，シュネーダー博士宛の本日付けの貴殿の内容は，期間と条件に合わせて了承されました。クリスマスに間に合わせるために 12 月には納品されることと信頼しております。

価格に応じたデザインの変更は了承していると，制作者に確認して，手紙をくださるようお伝えください。窓の製作にはすみやかに着手してください。

敬具　モルガン
＜署名＞

確認済み：シュネーダー＜署名＞
1931 年 7 月 3 日

＜＜

＜ラーハウザー記念礼拝堂の 1932 年 HBB 工房作の『昇天』ステンドグラス＞

この手紙[9] からわかることは，注文主のシュネーダー院長は，カタログから気に入ったスケッチを選び，さらにスケッチの構図について，注文を付け，銘文の指定をしていることである。カタログの作品番号が 14068 番というのは，図像別，また大きさ別などでカテゴリー分けして桁を変えていたためかと類推する。

第 1 の手紙のなかにあるクライスト・チャーチとは横浜の教会のことで，日本名で横浜山手聖公会と呼ばれている聖公会（イギリス国教会）の教会である。聖堂は 1931 年の献

9　この 2 通の手紙の翻訳に関しては，本学文学部の原田浩司准教授および同じく文学部の出村みや子教授の協力を得ました。

堂で，献堂時にステンドグラスが設置されたが，1945 年 5 月 29 日の横浜大空襲で焼失している[10]。シュネーダー院長は，そのステンドグラスを知っていて，それを好んで同じものを希望して注文をだしたことが手紙からわかる。横浜山手聖公会の失われたステンドグラスの写真は，横浜市の光ステンド工房の代表である平山健雄氏の尽力によって発見され，昨年 2016 年 11 月 5 日の東北学院での講演会「ラーハウザー記念礼拝堂の＜昇天＞ステンドグラス：イギリスにおける中世美術復興」において，平山氏によって披露された【図 6】。

この両者を較べてみると，シュネーダー院長の注文とおり，東北学院のステンドグラスには，横浜にはない銘文が付け加わり，天使の数は横浜の 6 人から，東北学院の 2 人に減り，中央のキリストと彼の両側の天使ひとりずつが強調されている。そのほかユダを除いた 11 人の使徒たちのポーズなど違いはあるが，構図は基本的に同じである。

横浜では天使の数は，中央のキリストの左右に 3 人ずつ描かれており，その下の使徒たちと上下に並んでいる。天使崇拝は，新約聖書では否定されている[11]。旧約聖書では預言者と天使が神と人を繋いだが，新約では神人であるキリストゆえに天使は不要となったからである。しかしこのように天使が描かれるのはなぜか？　昇天を記す福音書や使徒言行録にも天使は登場しない。これは受肉による物質の聖化を示すものと解釈できる。聖アタナシオス（Athanasius Alexandrinus, c.296-373）が『言の受肉』（54,3）で記すように，「この方（言）が人となられた（εανθρώπησις）のは，われわれを神とする（θεοποίησις）ためである」[12]。もちろん人が神になるはずはない。これはルター（Martin Luther 1483-1546）のいう神と人の「喜ばしき交換（der fröhliche Wechsel）」[13] と解釈すべきであって，我々人間が天使となると解釈すべきであろう。もちろん文学的なものであって，たとえばプラトンが『パイドロス』のなかで，「美に触れると両肩のあたりから翼が生え出してくる」と記しているが[14]，そのような意味においてである。東北学院のステンドグラスでは天使がキリストの両脇にひとりずつになっていることは，あくまで天使を象徴として捉え，実体化しない配慮とも読める。

しかし，横浜と東北学院のステンドグラスで大きく異なるのは，キリストの足元に描かれているエルサレムが，横浜ではほとんど目立たず，東北学院のステンドグラスでは，ヨハネの頭上に大きく強調されて描かれていることである【図 7】。キリストが昇天したのは，『使徒言行録』第 1 章 12 節に，イエスが天に上げられた後，「使徒たちは＜オリーブ畑＞

10　http://anglican.jp/app-def/S-102/yamate/聖堂（礼拝堂）について/3 代にわたる聖堂の変遷
11　『コロサイ人への手紙』第 2 章 18-19 節。
12　『言の受肉』，宮本久雄編『中世思想原典集成 2 盛期ギリシア教父』平凡社，1992 年，134 頁。
13　ルター『キリスト者の自由』（1520 年）ルター研究所編『ルター著作選集』教文館，2005 年，277 頁。
14　プラトン『パイドロス』（藤沢令夫訳）岩波文庫，1967 年，85 頁。

と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た」と記されているように，現在昇天聖堂のあるオリーブ山でのことで，エルサレムの真東に位置する。つまりオリーブ山からエルサレムは西の方向で，東北学院のステンドグラスに描かれたエルサレムの背景の赤は，昇天が何時のことか明らかでないとしても，西の空の夕焼けを意味するとしてよいだろう。この夕焼け空については，古代末期から中世初期のアプシスの背景に描かれる「夕焼け空から派生した色鮮やかな雲塊」【図 8】は後の金地背景に先行して異次元世界の「天上のエルサレム」を表わしていると，つとに辻佐保子が指摘するように[15]，現実のエルサレムの上にあって，天上のエルサレムを表わしていると解釈できよう。

またこのエルサレムははっきりと中央に位置しており，意味があるように思える。

ここには（あくまで推測であるが），東北のキリスト教伝道の拠点である仙台[16]をエルサレムに！との思想があるのではないだろうか。エルサレムへの憧れを歌う詩は多いし，ウィリアム・ブレイク（William Blake 1757-1827）が預言詩『ミルトン』の序詩として記した「エルサレム（Jerusalem）」は「イングランドの緑なす豊かな地にエルサレムを建てるまでは，私は剣を収めない（I will not cease from mental fight, nor shall my sword sleep in my hand, till we have built Jerusalem in England's green and pleasant land）」と歌う詩で，1918 年にチャールズ・パリー（Sir Charles Hubert Hastings Parry 1848-1918）によって作曲されて国民歌になっている例もある。1878 年にイザベラ・バード（Isabella Lucy Bird 1831-1904）も東北旅行の際に立ち寄った米沢を「申し分のないエデンの園」で,「繁栄し，自立した東洋のアルカディア」と記しており[17]，後のことではあるが，東北におけるキリスト教伝道の状況を記した書物を 1918 年に出版したクリストファー・ノッス（Christopher Noss b. 1869）も，その最後を「スコットランドが西欧にとって最も純粋で最も真実のキリスト教の牙城であるように，東北地方はアジアのスコットランドになるべきだ（Our beautiful Tohoku shall become to Asia what Scotland has been to the western world, a stronghold of purest, truest Christianity）」と結んでいる[18]。シュネーダー院長のステンドグラスの注文に，中央にエルサレムを目立たせるとの指示はないし，HBB 工房の創意でもないだろう。単なる偶然ということになるが，この東北学院の「昇天」ステンドグラスで，エル

15　辻佐保子『中世絵画を読む』岩波書店，1987 年，84 頁。

16　新潟は，幕末の開港時の 1859 年に横浜と長崎と函館が開港されたのに続いて，神戸とともに開港された港なのであって（石井孝『日本開国史』吉川弘文館，1972 年，342-3 頁），明治初期にはむしろ東北伝道の中心は新潟であったようである。押川方義もまず新潟伝道から始めていて，1880 年の新潟大火を機に仙台に移った。ただし正教会は，函館で受洗した仙台藩士たちによって明治初年以降，仙台を拠点としていた。

17　『イザベラ・バードの日本紀行（上）』（時岡敬子訳）講談社学術文庫，2008 年，320 頁。

18　Christopher Noss, *Tohoku : The Scotland of Japan*, Philadelphia, 1918, p. 292.

サレムが中央にあって印象深いことは否定できない。東北学院の象徴としてのラーハウザー礼拝堂，そしてさらにその中心としてのステンドグラス，そしてさらに中央のエルサレムという構造になっていて，このエルサレムのステンドグラスは建学の精神を見事に現している。

なお HBB 工房作のステンドグラスは，わが国にもう一点，神戸にある，あるいは，あった。1986 年にバイン家の子孫が出版した記録[19] によれば，BHH 工房の 1932 年の作品リストに，イギリスとアメリカ以外には 15 点あり，日本には神戸と横浜のクライスト･チャーチと横浜（ママ）の東北学院にあると記されている。横浜のシングルトン・ベンダ商会が HBB 工房に注文を出したようであるから，「横浜」と記されているのであろう。クライスト・チャーチと東北学院のステンドグラスのところには「E」と注記もされていて，西壁つまり礼拝堂の奥のステンドグラスであることがわかる。勿論実際には日本では西壁にはならない。東北学院では北壁になっている。神戸は教会であることも記されていず，「E」の記載もないことから，個人の邸宅に設置されたものと推測する。現存しているのかもしれないが，今は確かめる術はない。ついでに HBB 工房のイギリスとアメリカ以外の 15 点には，フランスのグラースやロシアのレニングラードや中近東のベイルートに並んで，日本のほかにアジアでは中国の上海の病院礼拝堂と韓国の Chelmulpo（済物浦すなわち仁川）の英国教会にあると記されている。

＜ HBB 工房制作のステンドグラスの様式，図柄の源泉＞

工房の制作の様子をうかがえる資料として，準備段階のスケッチが残っている例がある。インターネットでオークションに出品されていた「キリストの復活を知らせる天使」のスケッチである【図 11】。スケッチは水彩で，ネット上で見るかぎり極めて美しい。このスケッチに基づく完成作のステンドグラスはいくつかあるが，デンビー（Denbigh）の聖マルチェラ（St Marcella）教会の例を挙げておく【図 12】。

そしてスケッチが見つかったわけではないが，図柄の源泉が見つかったものがひとつある。掛川のステンドグラス美術館は，個人コレクションの寄贈によって一昨年の 2015 年に開館した市立美術館であるが，そこに HBB 工房のステンドグラスが幾つか所蔵されている。そのうちの 1 点「子供たちを祝福するキリスト」【図 13】の源泉は，ドイツの画家ハインリヒ･ホフマン（Heinrich Hofmann 1824-1911）の絵画聖書の 1 枚の版画であった【図

19 Simone Berthe Marthe Bayne-Dupaquier, *Heaton, Butler & Bayne : Un Siecle d'Art du Vitrail*, Montreux, 1986, p. 131.

14】。これは版画集『われを思え（Gedenke Mein)!』（1885 年初版ミュンヘン刊行）の内の一枚である。同じ図柄はロシアではイコンにも流用された【図 15】。掲載した図版は現在のロシアで大量生産されているイコンであるが，現在のロシア・イコンは革命前の帝政時代のイコンを模写しているので，帝政時代に描かれていたものとしてよい。

ハインリヒ・ホフマンの聖書主題の絵画のなかで最も有名な絵は，『ゲッセマネのキリスト』(1890 年)【図 16】であるが, これはアメリカ合衆国のニューヨークの富豪ロックフェラー家が好んで購入したため，現在はニューヨークにロックフェラーが建設した巨大なネオゴシックの聖堂であるリバーサイド・チャーチ（Riverside Church）に所蔵されている。この図柄もまたロシア・イコンに流用されたことは，山下りんがイコンとして描いていることからもわかるし【図 17】，実際ロシア・イコンになっている【図 18】。山下りんのイコンは，彼女のおそらく晩年，1910 年代の制作で，鹿沼の正教会にある。もう一点，同じ図柄のイコンが個人蔵にあることがわかっている。この図柄もまたステンドグラスになっている【図 19】のであり，アメリカのジョージア州サヴァンナ（Savannah）のルター派の昇天教会にある[20]。序でながらわが国の明治時代の写真術のパイオニアである下岡蓮杖（1823-1914）も晩年このホフマンの『ゲッセマネのキリスト』を模写している[21]。下岡蓮杖は 1874 年に横浜で，本学の創設者押川方義と同じくオランダ改革派の宣教師 J・H・バラ（James Hamilton Ballagh 1832-1920）から洗礼を受けたクリスチャンであった[22]。

ハインリヒ・ホフマンの絵はいまだ美術史学の研究対象にはなっていない。デッサンに卓越した画家であるし，技術的にもベルリンのメンツェル（Adolph Friedrich Erdmann von Menzel 1815-1905）などと比較して考察可能な画家[23] と思うが，あまりに人口に膾炙し通俗的だからだろうか研究書はない。しかしホフマンの研究はないが，ホフマンの影響を受けたアメリカの画家ワーナー・サルマン（Warner Sallman 1892-1968）は研究対象となっている。ただし美術史学ではなく，大衆芸術として宗教学あるいは文化人類学の研究対象である[24]。

---

20 https://jp.pinterest.com/pin/342414377891977165/

21 『植村正久とその時代』第 4 巻，1976 年（1938 年初版），390 頁。拙著『山下りん研究』所載「イコンとチャンス・イメージ」（初出 2004 年）の註 4，311 頁。その後，静岡県立美術館の 2014 年『没後 100 年　日本写真の開拓者　下岡蓮杖』展で展示され, 南美幸による調査結果が発表された。南美幸「下岡蓮杖のキリスト教絵画―＜手本＞を中心とする考察」『静岡県立美術館紀要』第 29 号（平成 25 年度）2014 年，11-20 頁。

22 同上，南論文，12 頁。東京都写真美術館編『下岡蓮杖：日本写真の開拓者』国書刊行会，2014 年，23 頁。

23 メンツェルについては，理論家のマイケル・フリードが取り組んで大著を出版したことで，一挙に高踏的な画家になった感がある。Michael Fried, *Menzel's Realism : Art and Embodiment in Nineteenth Century Berlin, Yale UP, 2002.*

24 David Morgan（ed.）, *Icons of American Protestantism : The Art of Warner Sallman*, Yale UP, 1996.

明治中期の1885年から1891年まで滞日していたドイツの宣教師シュピンナー（Heinrich Wilfried Spinner 1854-1918）は，ホフマンの絵について次のように記している。「ホフマンの『イエスの生涯からの光景』で仏教の類似性に気付かせられる。仏陀は30歳で独りになり，キリストは12歳で神殿にはいる。仏陀とキリストの誕生には天使がいる」（1890年10月24日日記）[25]。

ここでシュピンナーはキリスト教と仏教の共通性を述べているのであるが，実際，ホフマンの聖書物語の絵は，以上見たように聖公会やルター派のステンドグラスになったり，ロシア正教のイコンになったりして，教派を越えている。それどころかシュピンナーに言わせると，ホフマンの絵はキリスト教と仏教の違いも超えることになる。これがキリスト教を受け入れたばかりの明治の若者を惑わせた新神学である[26]。

＜19世紀イギリス，そして現代における中世の意味＞

ステンドグラスは，ロシア・イコンのように既存の図柄を転用して模写する。しかも工房で集団的な制作である。これが，ステンドグラスが1851年のロンドンの万国博覧会において「芸術（fine arts）」ではなく「産業（manufactures）」に分類された要因のひとつであると思うが[27]，ロシア・イコンの場合は模写に，ビザンティン以来の教義的な裏付けがあった。1551年にイヴァン4世の主導によってモスクワで開催されたストグラーフ（百章）会議の決定に言う。「画家は古い手本に従わねばならない。ギリシアの画家やアンドレイ・ルブリョーフや他の著名な画家たちが描いたように描かねばならない。画家はさかしらから変更を付け加えようとしてはならない」[28]。ロシア正教会では，イコンは与えられた図柄を模写する中世的制作方法によっている。まさに787年の第2ニケア公会議の10月13日の第7部会での決定にいう「画家の領分は技術（τεχνη, ars）に限り，構図

25　ハーマー編『明治キリスト教の一断面：宣教師シュピンナーの＜滞日日記＞』（岩波哲男・岡本不二夫訳），教文館，1998年，215-6頁。

26　「ドイツから聖書の高等批評を基礎とする，いわゆる新神学が導入されて，教会的伝統と神学的素養を持たなかった日本のキリスト教は，一大動揺を受けるに至った。」隅谷三喜男『近代日本の形成とキリスト教』新教出版社，1961年，125頁。

27　Jasmine Allen, ‘Why are the painted windows in the industrial department ?’ The classification of stained glass at the London and Paris International Exhibitions, 1851-1900, in Nichols/ Wade / Williams (ed.), *Art versus Industry : New Perspective on Visual and industrial cultures in nineteenth-Century Brittain,* Manchester UP, 2016, pp. 61-80.

28　拙稿「スラブ文化のなかのイコン（聖像画）」，中村喜和ほか編『スラブの文化』（講座スラブの世界），弘文堂，1996年，76頁。中村喜和訳「百章試訳（2）」『一橋大学研究年報　人文科学研究』第30号，1993年，52頁。Е. Б. Емченко, *Стоглав, Исследование и текст*, Москва, 2000, стр. 304.

（διαταξις, dispositio）は教会を形作った教父たちに属する」[29]。そして西欧でもテオフィルス（Theophilus　12 世紀前半）はその技法書『諸技芸提要（Diversarum artium schedula）』に次のように書いている。まず「卑しき司祭にして，神の僕たちの僕，修道士の名と職とにふさわしからぬ我」と自らを位置づけ，「先祖たちの聡明な見通しが，我々の時代まで伝え来たったものを，……さらに神が世襲財産として人に伝え給いしものを，……何人といえども，あたかもそれが自ら生じたもので，他から受けたものではないかのように，自らに栄光を帰することのないように」[30]。つまり画家は神の前で被造物であり無に定められている。自ら誇る栄光や尊厳は皆無である。もちろん表現すべき自己など存在しない。できることは与えられた神の姿，究極的には 544 年に再発見されたタオルに写ったキリストの顔（マンディリオン：Mandylion）を忠実に写すのみであった。それが中世の人間観であり，芸術観である。

正教会のイコンは模写であり，革命前までの帝政ロシア時代のイコンは西欧カトリックの図像を模写している場合も多いので，意外な宗教画が身近にあることがある。例えば仙台の正教会には，フランスのジェラール（François Gérard 1770-1837）やルフェーヴル（Robert Lefèvre 1755-1830）やプリュードン（Pierre-Paul Prud'hon 1758-1823）の弟子で，1812 年以降屢々サロンに出品した歴史画家のシャルル・シュテイベン（Charles Auguste, baron de Steuben 1788-1856）が描いた『復活』の絵の模写がある。シュテイベンはドイツ生まれではあるが，ロシアの陸軍大尉の息子で，晩年の 1848 年から 49 年にかけてロシアに帰って，聖イサク大聖堂に 7 点のイコンを描いた[31]。1902 年に山下りんが東京のロシア公使館のイコンを模写したとの記録と写真が残っており[32]，そのイコンがこの構図であるから，聖イサク大聖堂の模写がロシア公使館の付属礼拝堂にあったことになる。仙台にあるイコンはさらにその山下りんのイコンを模写したものである。また石巻あるいは大船渡の正教会には，カルロ・ドルチ（Carlo Dolci 1616-87）の『祝福するキリスト（Christ Benedicente）』（ドレスデン絵画館蔵）のコピーがイコンとしてあった[33]。中新田の正教会には，キエフのヴラディミル聖堂にヴァズツォーフが 1885 年から 96 年にかけてモザイクで制作した聖母子の油彩のコピーがある【図 20, 21】。同じ絵のコピーは札幌の正教会にもある。中新田のコピーには「クレトヌィ　ロシア　キエフ　1916 年（А Клетный Россія г Киев 1916г）」との署名がある。ロシアのイコン画家ももちろん署名はする。し

29　J. D. Mansi, *Sacrorum conciliorum nova et amplissima collectio,* vol., 13, Graz, 252C.
30　『さまざまの技能について』森洋訳，中央公論美術出版，1994 年，39-40 頁。
31　拙著『山下りん研究』第 11 章「山下りんと中世イコンとの出会い」（初出 1996 年），298 頁，註 10。
32　水島行揚編『東京復活大聖堂』正教本会編輯所，1905 年，第 82 図。
33　前掲拙論「山下りんと中世イコンとの出会い」154 頁，また 357 頁の図 11-10。現在所在地不明。

かしイコンは画家の自己表現ではない。画家は，あくまで第 2 ニケア公会議で言われているように，教会が定めた図柄を実行して制作している，ビザンティンからの言い回しだと実行する単なる「手（χειρ）」でしかないとの位置づけである。

これが中世における絵画の制作方法であり画家の姿勢であった。19 世紀に復興したステンドグラスも，そもそもステンドグラスという美術は，ロマネスクの闇に対してゴシックの光の作品であり，12 世紀以来多くの作品が制作されている中世の美術であるから，同じような姿勢があるかと予想した。しかし予想は違った。ジム・チェシャー准教授によると，19 世紀に復興したステンドグラスは個人の功績の賞揚であるという。確かに 19 世紀のステンドグラスの下端には, 記憶する人物や寄進者の名前が記されていることが多い。オクスフォードのハリス・マンチェスター・カレッジ（Harris Manchester College）の図書館のステンドグラスは 1898 年に，まさに HBB 工房によって制作されたものであるが，そこは大学関係者の肖像画で埋め尽くされて，個人を顕彰している【図 22, 23】。それぞれの肖像は写真をもとにガラスの表面に焼き付けられている。19 世紀の中世復興には画家の無名性の復権はなかったという見込みが可能である。そこに柳宗悦の民芸運動との大きな違いがあるのかもしれない。柳は「工藝の美」（1927 年）のなかでこう記す。「よき作を集めるならば，そのほとんど凡てに作者の名が見えないではないか。いつも自我への固執が消されているのではないか。あの名品を誰が作ったのであろうか。その地方のその時代の，誰でもが作り得たのである。そこには大勢が活きて個人は匿れた。どこに個性を言い張る者があったであろう。工藝は無銘に活きる。」[34] また 1931 年に喜左衛門井戸の茶碗についてこう記す。「＜井戸＞は生まれた器であって，作られた器ではない，その美は賜物なのである。恵みなのである。授けられたのである。自然への従順な態度がこの恩寵を受けるのである。もし作者たちに自らを恃む傲慢があったなら，恩愛を受ける機縁は来なかったであろう。美の法則は彼らの所有ではない。法則は＜我れ＞とか＜わがもの＞とかを越えた世界に在るのである。法則は自然の作業であって，人智の工夫ではない」[35]。これは既に引用した 12 世紀西欧のテオフィルスの言と見まがう言明ではないか。すでに挙げたロシア・アヴァンギャルドのヴラディミル・マルコフも次のように書いていた。「芸術に育まれ美的教養の高い中国においては，芸術家たちは三千年もの間にわたって存在し続けてきた過去の芸術の変種を作ることを断固要求されており，模倣や自由な模写はそこでは非常に高く評価されている（In China, a nation nurtured on art and educated in beauty, artists are imperiously required to produce variations on the art of the past, which has existed

34　柳宗悦「工藝の美」（1927 年）『民藝四十年』岩波文庫，1984 年，111-2 頁。
35　柳宗悦「＜喜左衛門井戸＞を見る」（1931 年）『民藝四十年』岩波文庫，1984 年，251 頁。

for three thousand years, and imitation and free copying are valued very highly）」[36]。ここには模写すなわち画家の無名性の積極的評価がある。ロシアでの中世復興であるアヴァンギャルド運動には，人間中心主義（ヒューマニズム）以前の神中心の無名性があったのであり日本と共通する。西欧の人間中心主義は神中心の長い中世を経て獲得した人間の尊厳を謳歌するものであり，もはや振り向くことは逆行でしかないのだろうか。しかし原点を確認することは，現在を再び活性化することになる。信仰はその都度獲得するものであり，反復によって常に新鮮である。信仰が否定する本能的感受性（偶像崇拝の感受性）はフロイトが発見したように，誰にでもある。無意識の世界に抑圧しているが，動物的感受性を意識化させて，否定することも必要である（日本では動物的感受性は無意識の世界に抑圧していない。たとえば人形供養は日常であり，我々は「もの」には命があることを踏まえて行動している）。人形は生きていないとは誰も言い切れないが，神がそう断定するから，我々も人形に命はないと言い切ることができる。そして，それによって我々は自由になる。

19 世紀西欧における中世復興を知ることによって，西欧の人間中心主義の限界をロシアと日本の近代における中世復興と比較して定めることができる。我々にとって中世とは何であるか，すなわち人間中心主義の近代において，神の働きとは何であるか，それが今後の中世復興と中世主義研究の課題である。

図版典拠

【図 1～3】【図 7】【図 14, 15】【図 17, 18】【図 20～23】　筆者撮影

【図 4, 5】　東北学院史資料センター提供

【図 6】　横浜山手聖公会所蔵（根谷崎武彦氏提供）

【図 8】　https://03varvara.wordpress.com/2010/11/30/unknown-artist-majestas-domini-christ-in-majesty-basilica-dei-santi-cosma-e-damiano-roma-italy-7th-century/

【図 9】　http://stainedglass.llgc.org.uk/object/4080

【図 10】　https://www.flickr.com/photos/amthomson/28340351135

【図 11】　インターネットで取得，再アクセス不能

【図 12】　http://stainedglass.llgc.org.uk/object/4427

【図 13】　志田政人（写真/新村卓之）『ステンドグラス　至宝の光：掛川ステンドグラス美術館コレクション』日貿出版社，2015 年，43 頁

【図 16】　http://art-now-and-then.blogspot.jp/2014/07/heinrich-hofmann.html

【図 19】　https://jp.pinterest.com/pin/342414377891977165/

36　John Bowlt（ed.）, *Russian Art of the Avant Garde : Theory and Criticism 1902-1934*, Thames and Hudson, 1976, p. 34-35. ボウルト編『ロシア・アヴァンギャルド芸術：理論と批評，1902-34 年』岩波書店，1988 年，67 頁。

図 1　ラーハウザー記念東北学院礼拝堂内部
1932 年

図 3　HBB 工房銘文　HBB 工房作ステンドグラス『昇天』1932 年　ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

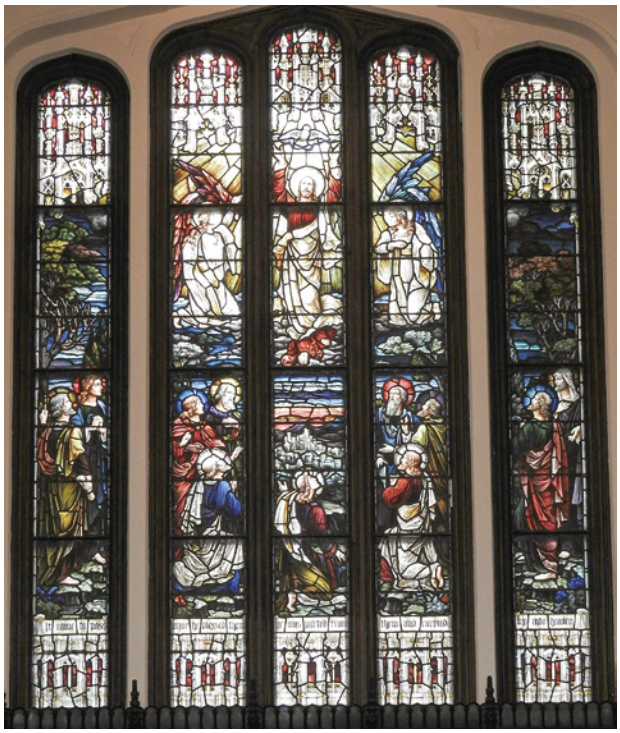
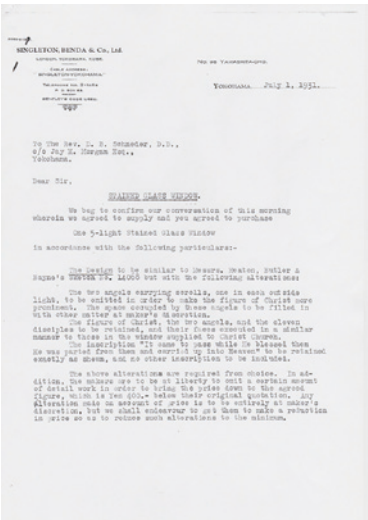


図 2　HBB 工房作ステンドグラス『昇天』1932 年　ラーハウザー記念東北学院礼拝堂



SINGLETON, BENDA & Co., Ltd.

YOKOHAMA. July 1, 1931.

To The Rev. D. B. Schneider, D.D.,
c/o Jay H. Morgan Esq.,
Yokohama.

Dear Sir,

STAINED GLASS WINDOW.

We beg to confirm our conversation of this morning wherein we agreed to supply and you agreed to purchase

One 5-light Stained Glass Window

in accordance with the following particulars:-

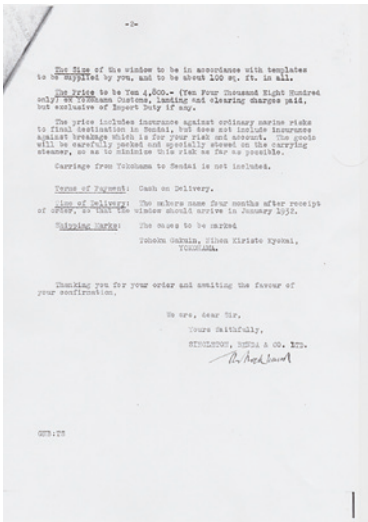
The Design to be similar to Messrs. Heaton, Butler & Bayne's Design No. 14066 but with the following alterations:

The two angels carrying scrolls, one in each outside light, to be omitted in order to make the figure of Christ more prominent. The space occupied by these angels to be filled in with other matter at maker's discretion.

The figure of Christ, the two angels, and the eleven disciples to be retained, and their faces executed in a similar manner to those in the window supplied to Christ Church.

The inscription "It came to pass while He blessed them He was parted from them and carried up into Heaven" to be retained exactly as shown, and no other inscription to be included.

The above alterations are required from choice. In addition, the makers are to be at liberty to omit a certain amount of detail work in order to bring the price down to the agreed figure, which is Yen 400.- below their original quotation. Any alteration made on account of price is to be entirely at maker's discretion, but we shall endeavour to get them to make a reduction in price so as to reduce such alterations to the minimum.



-2-

The Size of the window to be in accordance with templates to be supplied by you, and to be about 100 sq. ft. in all.

The price to be Yen 4,800.- (Yen Four Thousand Eight Hundred only) at Yokohama Customs, Landing and clearing charges paid, but exclusive of Import Duty if any.

The price includes insurance against ordinary marine risks to final destination in Sendai, but does not include insurance against breakage which is for your risk and account. The goods will be carefully packed and specially stowed on the carrying steamer, so as to minimize this risk as far as possible.

Carriage from Yokohama to Sendai is not included.

Terms of Payment: Cash on Delivery.

Time of Delivery: The makers name four months after receipt of order, so that the window should arrive in January 1932.

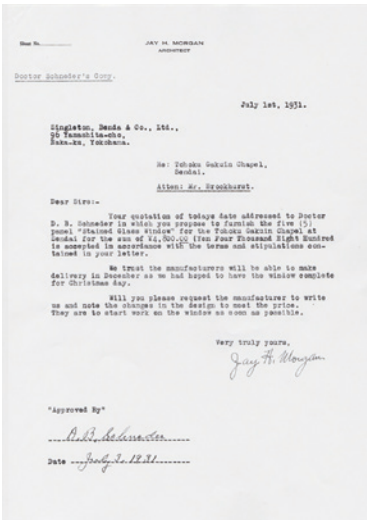
"Shipping Marks": The cases to be marked

Tohoku Gakuin, Sihen Kiristo Kyokai,
YOKOHAMA.

Thanking you for your order and awaiting the favour of your confirmation,

We are, dear Sir,
Yours faithfully,
SINGLETON, BENDA & CO. LTD.

GTB:TS



JAY H. MORGAN
ARCHITECT

Doctor Schneider's Corp.

July 1st, 1931.

Singleton, Benda & Co., Ltd.,
98 Yamashita-cho,
Naka-ku, Yokohama.

Re: Tohoku Gakuin Chapel,
Sendai.

Atten: Mr. Brookhurst.

Dear Sirs:-

Your quotation of todays date addressed to Doctor D. B. Schneider in which you propose to furnish the five (5) panel "Stained Glass Window" for the Tohoku Gakuin Chapel at Sendai for the sum of ¥4,800.00 (Yen Four Thousand Eight Hundred) is accepted in accordance with the terms and stipulations contained in your letter.

We trust the manufacturers will be able to make delivery in December as we had hoped to have the window complete for Christmas day.

Will you please request the manufacturer to write us and note the changes in the design to meet the price. They are to start work on the window as soon as possible.

Very truly yours,
Jay H. Morgan

"Approved By"

D. B. Schneider

Date July 2, 1931

図 4　シングルトン・ベンダ商会からモルガン気付でシュネーダー院長宛書簡（1931 年 7 月 1 日付け）

図 5　モルガンからシングルトン・ベンダ商会宛書簡（1931 年 7 月 1 日付け）

図 6　HBB 工房作ステンドグラス『昇天』1931 年 横浜山手聖公会（1945 年焼失）

図 7　HBB 工房作ステンドグラス『昇天』（部分）1932 年ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

図 8　モザイク『主の栄光（Mejestas Domini）』コスマス・ダミアン聖堂（Cosma e Damiano）526-530 年ローマ

図 9　HBB 工房作ステンドグラス『昇天』（部分）1922 年　聖ミカエル全天使教会　キャッスルマーティン

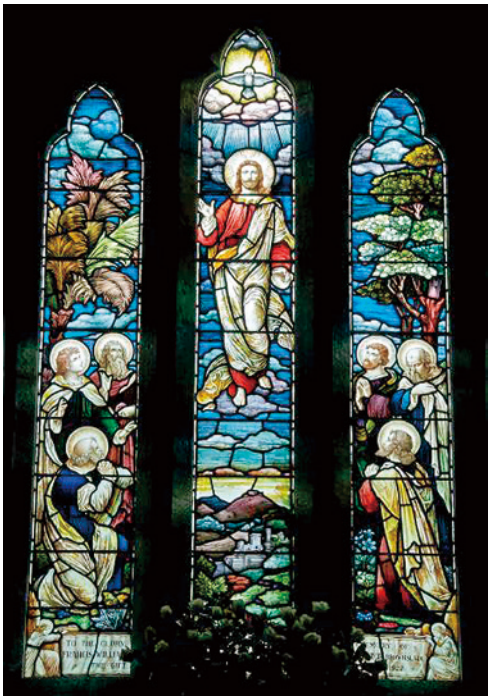


図 10　HBB 工房作ステンドグラス『昇天』（部分）1926 年　レスター大聖堂

図 11　HBB 工房作『復活を告げる天使』スケッチ　1890 年頃

図 12　HBB 工房作ステンドグラス『復活を告げる天使』1912 年。デンビー，聖マルチェラ教会，北内陣，北壁

図 13　HBB 工房作ステンドグラス『子供たちを祝福するキリスト』制作年不詳　掛川市立ステンドグラス美術館

図 14　ハインリヒ・ホフマン（Heinrich Hofmann 1824-1911）『子供たちを祝福するキリスト』版画集『われを思え（Gedenke Mein)!』1893 年（15 版 初版 1885 年）ミュンヘン刊行

図 15　ロシア・イコン『子供たちを祝福するキリスト』

図 16　ホフマン（Heinrich Hofmann 1824-1911）『ゲッセマネのキリスト』1890 年　ニューヨーク，リバーサイド・チャーチ

図 17　山下りん（1857-1939）『ゲッセマネのキリスト』制作年不詳　鹿沼ハリストス正教会

図 18　ロシア・イコン『ゲッセマネのキリスト』

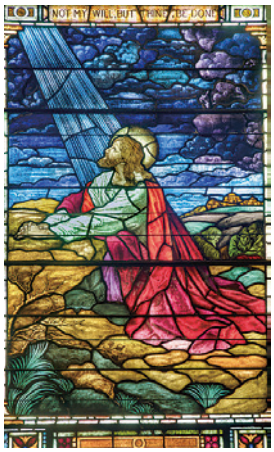


図 19　ステンドグラス『ゲッセマネのキリスト』サヴァンナ　ルター派昇天教会

図 20　クレトヌィ『聖母子』1916 年，中新田教会
図 21　同，銘文

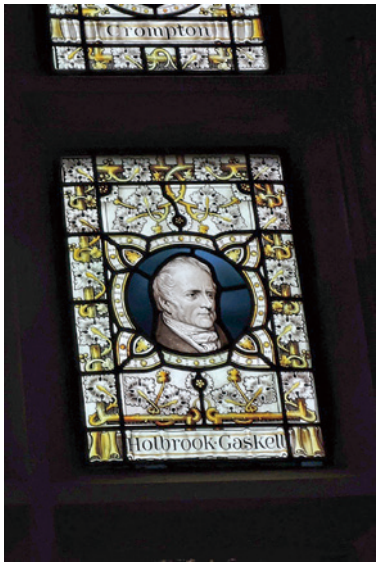



図 22, 図 23　HBB 工房作ステンドグラス『大学の貴顕の肖像』 1898 年 ハリス・マンチェスター・カレッジ図書館 オクスフォード